

重

点

戦

略

地域が輝く「農林水産業活力向上戦略」

味や品質に優れ全国に誇れる「やまぐちブランド」等の国内外に向けた販路拡大や地域資源を活かした6次産業化と農商工連携の一体的な推進、本県水産業の拠点である下関漁港の強化・充実により、農林水産業の活力向上を図ります。

プロジェクト

- ◇「やまぐちブランド」等の販路拡大
- ◇アジア等に向けた輸出拡大
- ◇6次産業化・農商工連携の推進
- ◇水産業振興基盤の強化・充実

プロジェクト	No	「やまぐちブランド」等の販路拡大
	1	

目標	やまぐちブランド登録商品増加と大都市圏への販路拡大 ≪やまぐちブランド登録数 4年間(平成25～28年度)で100商品以上≫ ≪大都市圏におけるやまぐちブランド取扱量販店・飲食店の設置数 4年間で70店以上≫
----	--

現状と課題

- やまぐちブランド登録商品が58となり、大都市圏への販路拡大が必要
- 全国から注目されている「日本酒」「長州黒かしわ」「きじはた」については、生産量が不足
- やまぐち和牛は生産量が十分でなく、県内外における認知度も不足

取組方針

- 大都市圏の量販店、ホテル、レストラン等に向けて、積極的な売り込みを図ります。
- 酒米、長州黒かしわ、きじはた等の安定供給に向けて、増産に取り組めます。
- やまぐち和牛の生産体制及びブランド確立に向けた取組を強化します。

具体的な取組

取組	<input type="checkbox"/> 大都市圏量販店における「やまぐちフェア」の開催 <input type="checkbox"/> 大都市圏ホテル・レストラン等に向けた食材の提案 <input type="checkbox"/> 酒米、長州黒かしわ、きじはた等の増産 <input type="checkbox"/> やまぐち和牛ブランドの確立				
工程表	取組	平成25年度 (実績)	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	「やまぐちブランド」の育成・登録	● やまぐちブランドの創設 58商品	● やまぐちブランドの育成・登録		● 登録数100商品
	大都市圏量販店における「やまぐちフェア」の開催		● 紀ノ国屋でのフェア開催 ● 他系列店でのフェア開催		● 継続開催、定番化に向けた取組 ● 継続開催、定番化に向けた取組
	大都市圏ホテル・レストラン等に向けた食材の提案		● ホテル椿山荘東京での「食材提案会」開催 ● リッツカールトン東京でのフェア開催		● 取扱店舗拡大に向けた取組
	酒米、長州黒かしわ、きじはた等の増産	[酒米供給量 平成25年度 年間238t]			● 酒米の増産(平成28年度 年間564t) ● 年間3万羽体制の整備 ● 長州黒かしわの安定供給(平成30年度 年間20万羽) ● 年間23万尾放流保護礁9カ所整備 ● きじはた資源管理体制の確立 ● きじはた稚魚の積極的な放流(年間10万尾) ● きじはた成魚漁獲開始
	やまぐち和牛ブランドの確立			● やまぐち和牛の生産拡大	● 全国和牛能力共進会に向けた出品体制強化

これまでの取組成果

- やまぐちブランド:平成26年3月末で58商品(目標40商品)
- 長州黒かしわ:専用鶏舎等の整備により、年間3万羽出荷体制を整備
- きじはた:約23万尾種苗を放流(目標10万尾)、幼稚魚保護礁を県内9カ所に整備
- 県産木材:木だわり空間整備事業を創設 4施設において、県産木材を使用した空間を整備

事業の概要

大都市圏における「やまぐちブランド」等の販路拡大

量販店でのフェア開催

ホテル・レストラン等への食材の提案

「やまぐちブランド」100の登録

味や品質に優れ、全国に誇れる農林水産物・加工品

安定供給に向けた増産

ブランドの確立

日本酒

年間製造量が5年連続増加
地元の水、酒米を使用した全国から注目を集める「やまぐちの地酒」は絶品!



長州黒かしわ

天然記念物の黒柏鶏を元に誕生した山口県産の地鶏
適度な歯ごたえがあり、噛めばかむほど味が出てくる、最高の逸品



きじはた

漁獲量が少ないことから「幻の高級魚」と呼ばれる、山口県沿岸域で獲れる魚
新たな県のブランド魚に!



やまぐち和牛

県育成の優良種雄牛を活用した山口生まれ山口育ちの肉用牛
おいしさ日本一に輝いたことも!



プロジェクト	No	アジア等に向けた輸出拡大
	2	

目標	アジアにおける輸出販売品数拡大と年間取扱店舗の確保 ≪輸出販売品数 4年間(平成25～28年度)で20商品(平成28年度)≫
----	---

現状と課題

- 農業団体等で構成する協議会が台湾へ農産物・農産加工品を輸出
- アジアへの輸出実績はあるものの、安定した輸出ルートが未確立
- 「やまぐち地酒」に対する国内評価の高まりにあわせ、一部蔵元が海外輸出を開始

取組方針

- 台湾をはじめとしたアジアにおける県産農林水産物等の輸出拡大を図ります。
- 「2015年ミラノ国際博覧会」に出展し、世界から注目される「やまぐち地酒」など「やまぐちの食や食文化」等の魅力を世界に向けて発信します。

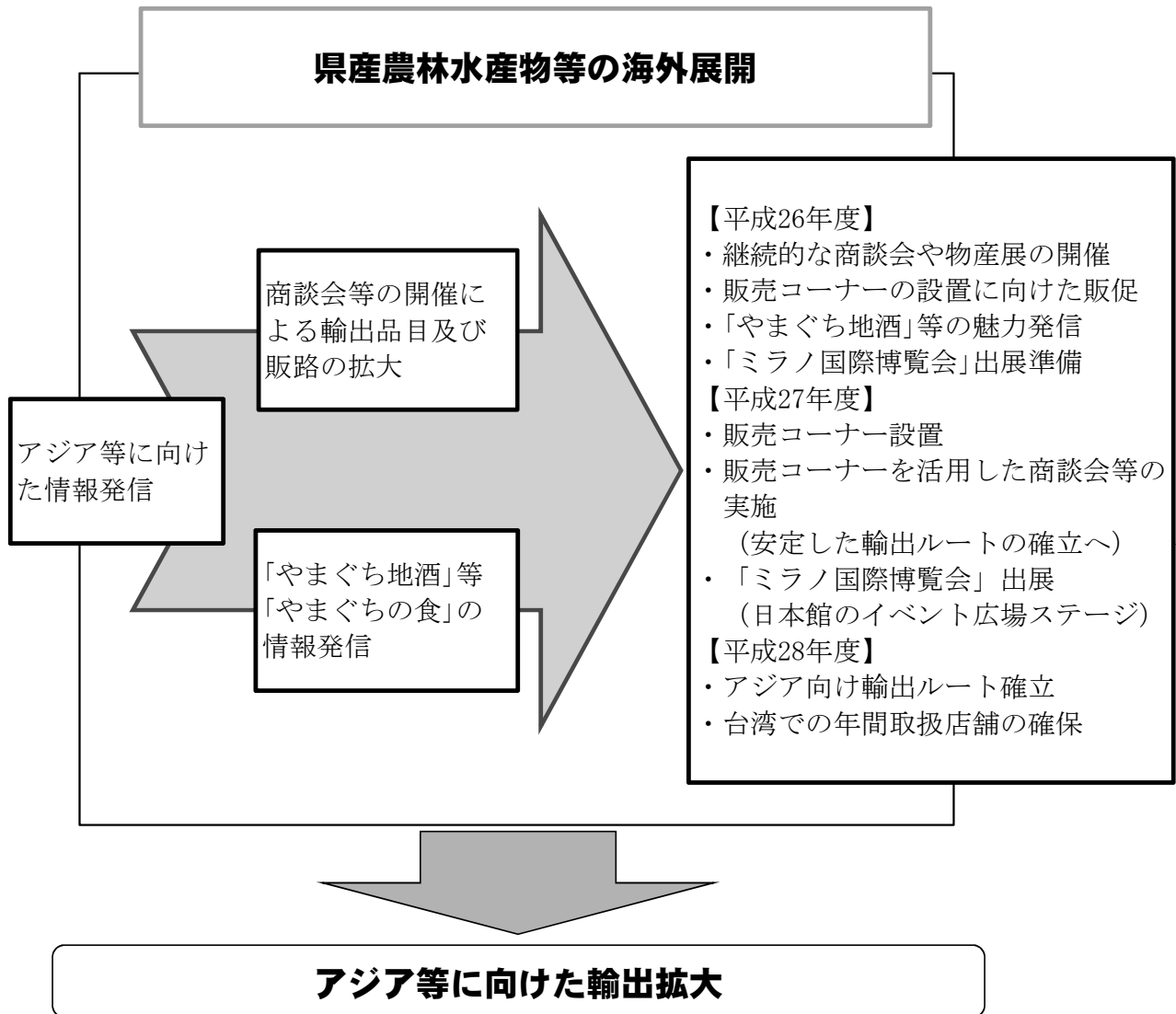
具体的な取組

取組	<input type="checkbox"/> アジア(主に台湾)におけるやまぐち物産展の開催 <input type="checkbox"/> 台湾に向けた自立した輸出ルートの確立 ・バイヤーを本県に招聘し、県内視察と商談会の開催 ・アジア輸出に精通した輸出パートナーの開拓 <input type="checkbox"/> 台湾における販売コーナーの常設化 <input type="checkbox"/> ミラノ国際博覧会への出展					
	工程表	取組	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	アジアにおけるやまぐち物産展の開催	● 台湾での物産展開催 (11月、12月)	● →	● →	● →	● →
	自立した輸出ルートの確立 ・バイヤー招聘・商談会の開催 ・輸出パートナーの確保	● 台湾での商談会開催 ● 台湾向け輸出パートナーの確保	● ● ● ● ●	● ● ● ● ●	● ● ● ● ●	● ● ● ● ●
	販売コーナーの常設化 ・「やまぐち地酒」などの魅力発信		● ● ● ●	● ● ● ●	● ● ● ●	● ● ● ●
	ミラノ国際博覧会への出展 ・「やまぐちの食や食文化」等の魅力発信		● ● ●	● ● ●	● ● ●	● ● ●

これまでの取組成果

- 物産展の開催: 大立百貨店(台湾)での「日本全国美食技藝展」へ出品(H25.11)
香港イオンにおける瀬戸内ブランドフェアへ出品(H25.12)
- 輸出ルートの確立: 輸出商談会の実施<参加企業33社、参加バイヤー10か国>(H25.11)
- 販売コーナーの設置: 微風廣場(台湾)での販売コーナー設置に向けたテスト輸出(H25.11)

事業の概要



物産展(台湾)



商談会

プロジェクト	No	6次産業化・農商工連携の推進
	3	

目標	地域資源を活かした魅力ある商品の開発の加速化 ≪6次産業化・農商工連携等による新商品開発件数 4年間(平成25～28年度)で50商品≫
----	---

現状と課題

- 6次産業化と農商工連携の対応窓口が分かれており、事業者にとって不便で非効率
- 国の計画認定要件のハードルが高く、迅速な事業化が困難
- 新商品のみを対象とした国の支援制度では、効果的な活用が困難な案件が存在
- これまでの事業化件数 6次産業化:17件 農商工連携:6件

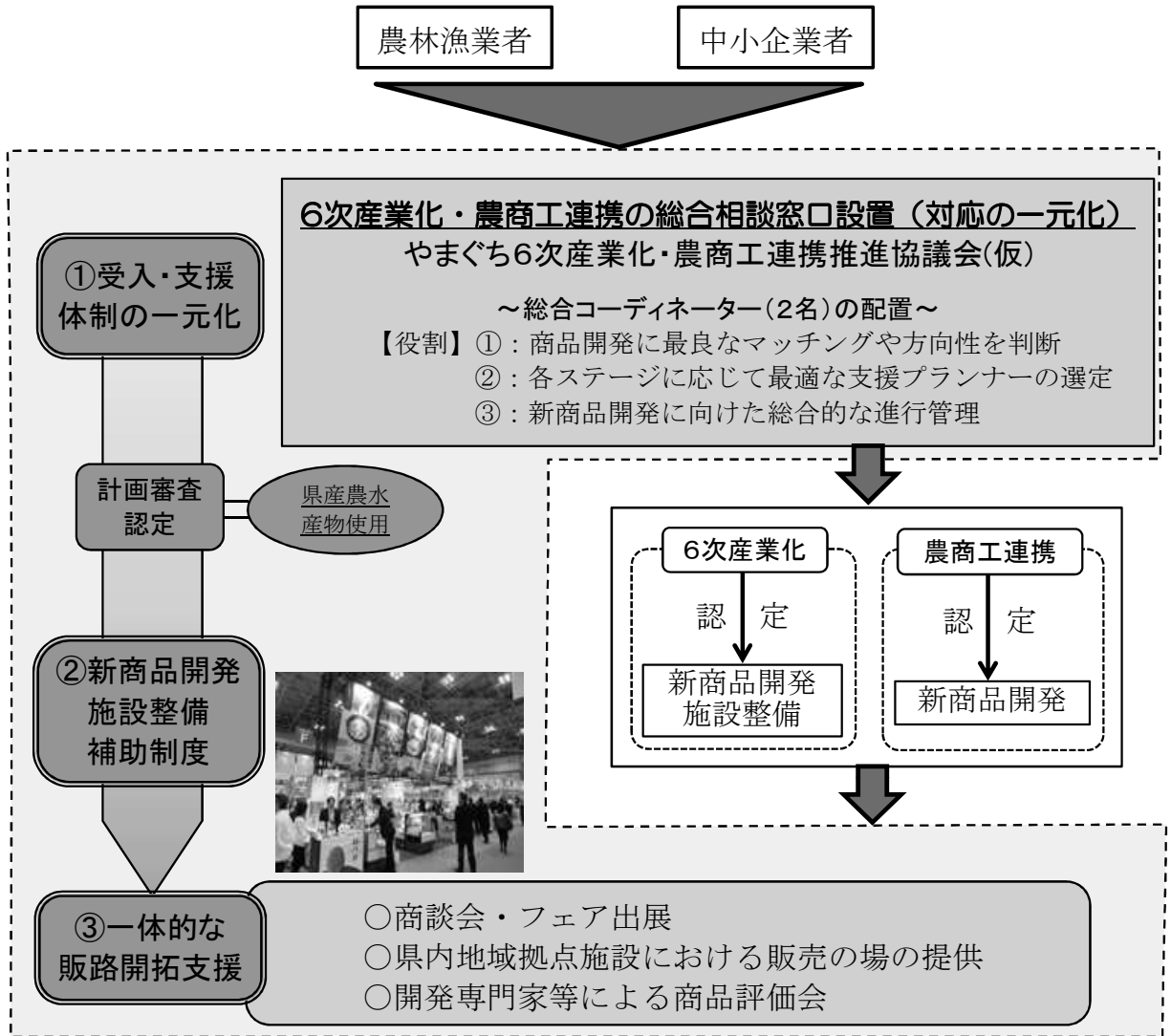
取組方針

- 6次産業化と農商工連携を一体的に進める総合的な支援体制を整備します。
- 県産農林水産物を活用した新商品開発を積極的に支援します。
- 6次産業化と農商工連携で開発された商品の大都市圏での販路開拓を図ります。

具体的な取組

取組	<input type="checkbox"/> 6次産業化と農商工連携の総合的な支援体制の整備 <input type="checkbox"/> 県産農林水産物を活用した新商品開発の支援 <input type="checkbox"/> 開発された商品の販路開拓支援					
	取組	平成25年度 (実績)	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
	6次産業化と農商工連携の総合的な支援体制の構築		● 協議会の設置 総合窓口の設置	● 異業種交流会の開催	● 総合コーディネーターによる支援 支援プランナーの派遣	●
			●→ 人材育成研修の開催	●→	●→	●→
	県産農林水産物を活用した新商品開発の支援		● 開発補助事業の創設	● 国事業の活用による新商品開発	● 総合コーディネーターによる支援 支援プランナーの派遣	●
		『やまぐち夢づくり産業支援ファンド』 ファンド存続期間の前半における集中的な投資実行				
開発された商品の販路開拓支援		● 「やまぐちフェア」の開催(首都圏)	● 商談会への出展支援(首都圏)	● 定番取扱に向けた支援	●	

事業の概要



地域資源を活かした魅力ある商品開発の加速化

やまぐち夢づくり産業支援ファンドの活用

農林漁業者の所得向上
中山間地域の活性化



プロジェクト	No	水産業振興基盤の強化・充実
	4	

目標	下関漁港の競争力強化及び拠点施設整備による水産業の振興
----	-----------------------------

現状と課題

- 下関漁港(本港)における取扱量の減少: S41年28.5万t → H23年3.5万t
- 本県水産業の拠点である下関漁港施設及び水産業関連施設の老朽化と機能低下

取組方針

- 下関漁港の機能を強化し、高度に衛生管理された質の高い水産物の安定供給を図ります。
(耐震化し高度衛生管理が可能な密閉管理型の荷捌き所の整備)
- 水産業関連施設を集約し、研修、防災、交流の機能を併せ持つ振興拠点を機能強化と一体的に整備し、本県水産業の振興を図ります。

具体的な取組

取組	<input type="checkbox"/> 下関漁港の競争力強化に向けた機能強化 <input type="checkbox"/> 水産業振興拠点の整備				
	取組	平成25年度 (実績)	平成26年度	平成27年度	平成28年度
工程表	下関漁港の競争力強化に向けた機能強化	<ul style="list-style-type: none"> ● 政府要望 (6月) ● 基本計画の策定 (9月) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 政府要望 (6月) ● 高度衛生管理型荷捌き所等の設計 	<ul style="list-style-type: none"> ● 支障施設の撤去 ● 高度衛生管理型荷捌き所等の工事 ● 高度衛生管理研修、推進体制の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ● 管理マニュアル等の作成
	水産業振興拠点の整備	<ul style="list-style-type: none"> ● 政府要望 (6月、11月) ● 推進協議会の設置 (1月) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 政府要望 (6月) ● 基本計画の策定等 	<ul style="list-style-type: none"> ● 拠点施設等の整備 	

これまでの取組成果

- 下関漁港の機能強化及び水産業振興拠点施設の整備に係る支援について国に要望
→ 機能強化については国の補助事業に採択
水産業振興拠点については、一部国の補助事業等が活用可能となる見込み
- 下関漁港の機能強化:機能強化に係る基本計画を国が策定し、12月に県が事業着手
- 水産業振興拠点の整備:推進協議会の設置(H26.1)

事業の概要

本県水産業の振興

下関漁港の機能強化

- 高度衛生管理型荷捌き所(市場)等の整備

水産業振興拠点の整備

- 研修、防災、交流等の機能を併せ持つ振興拠点施設等の整備

本県水産業振興の拠点となる施設等の整備

